様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３２６０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２３８５

研究課題名（和文）ラテン語詩と近世初期日本の交差

研究課題名（英文）Intersections of Latin Poetry and Early Modern Japan

研究代表者
渡邉　顕彦（Watanabe, Akihiko）

大妻女子大学・比較文化学部・准教授

研究者番号：６０６１２０２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間中に１）P.Palumbo (1573) Non Recedat Volumen Legis Huiusの背景および近世初期日本における受容について、２）ヴァティカン写本(MS. Reg. lat. 426)の最後部にあるラテン語寸詩および叙事詩断片計4点の内容および源泉について、３）B.Pereira (1640) Paciecidos Libriの背景や内容について、調査や発表を行った。
特に２）の、近世初期日本人神学生によって筆写されたのではないかと推定される擬古典ラテン語詩4点が、1588年にリスボンで刊行された書籍から採られているとほぼ同定できたことが最大の成果である。

研究成果の概要（英文）：During the research period, the researcher studied and presented on the following topics: 1) The background of P.Palumbo (1573) Non Recedat Volumen Legis Huius and its receptions in Japan, 2) The content and source of the 4 Latin poems (epigrams and one epic excerpt) copied near the end of the Vatican manuscrupt MS. Reg. lat. 426, and 3) The background and content of B. Pereira (1640) Paciecidos Libri.
The most notable outcome of the research is the almost definite identification of the source of 4 humanistic Latin poems as a 1588 Lisbon publication.

研究分野：西洋古典

キーワード：西洋古典受容　キリシタン文化学　ラテン文学

１．研究開始当初の背景
16 世紀後半から 17 世紀前半にかけて日本でラテン語を含む西洋古典がイエズス会のセミナリオで教授され、古典ラテン語を読み書き出来る日本人学生やイエズス会士も一部いたことは先行研究より明らかにされてきた。またキリシタン時代に日本に輸入された銅版画に付されている擬古典ラテン語詩、1621 年にマニラで刊行された、日本人司祭後藤ミゲル作とされる擬古典ラテン語詩、およびキリシタン時代の日本におけるイエズス会の事績を題材にしてヨーロッパで作成された擬古典ラテン語詩についても国内外で先行研究が行われてきている。しかしこれらを総合して擬古典ラテン語詩の伝統と近世初期日本を総合的に俯瞰した研究はなく、またバチカン所蔵の日本人神学生達が作成した可能性が高い写本 BAV Reg. lat. 426 最後部にある擬古典ラテン語詩 4 点に関する詳細な研究調査もこれまで無かった。

２．研究の目的
近世初期日本とギリシア・ローマ古典とのイエズス会を介した関わりは、西洋の真髄とも見做されてきた文化伝統と非西洋を繋ぐ興味深い受容事例である。本研究は近世ヨーロッパにおける西洋古典伝統中、特に上位文化的な擬古典ラテン語韻文に焦点を当てた。具体的には(1)キリシタン時代に輸入され、国内で現存が確認出来る銅版画に附せられたエレゲイア寸詩群、(2)日本人キリシタン作とされるエレゲイア寸詩、および彼等の教科書、手稿、宣教師記録等から推定される作詩練習過程、(3)キリシタン宣教と迫害についてヨーロッパで印刷出版されたラテン語叙事詩、の 3 種の原テクストを確定・精査し、それらをめぐる文学・文化的背景を考察した。

３．研究の方法
(1)キリシタン時代に輸入されたことが確認できるラテン語寸詩付き銅版画(P.Palumbo (1573) Non Recedat Volumen Legis Huius)は電子画像でテクストの文字起こしを行い、近似する語句パターンを古代～近世ラテン語テクスト群から拾い出し、この寸詩群の文学的背景と、キリシタン時代日本人が触れた可能性のあるカトリック人文主義の特徴を明らかにした。
(2)日本人司祭後藤ミゲル作とされる 1621 年に刊行されたオヴィディウス調寸詩についてはその韻律を検討すると共に、刊行版で前に置かれているスペイン人司祭ガルシア・ガルセス作の寸詩とも比較した。この比較により、後藤ミゲルの人文主義的カトリックラテン語詩人としての才能の評価を行った。またキリシタン時代日本人神学生が筆写した可能性のある写本 BAV Reg. lat. 426 についてはその一部文字起こしと翻訳および研究を熊本県立大学文学部所属の平岡隆二准教授と協力して進め、さらにその最後部に記されているラテン語詩 4 点の文字起こしと韻律検討も進め、Volkswagenstiftung 研究 Bernhard Schirg と協力して、これらの源泉の同定を試みた。
(3)1640 年にポルトガルで出版された Pereira の Paciecidos Libri は電子画像を入手読解し、その内容、特に韻律の水準、および作成背景を研究調査し明らかにした。

４．研究成果
(1) P.Palumbo (1573) Non Recedat Volumen Legis Huius については、他の同時代カトリック人文主義的擬古典ラテン語詩と同様に、ヴェルギリウスやオヴィディウス等古典黄金期から始まり、クラウディアヌス等古典末期や中世も含む千数百年の伝統を汲んでいることが詳細な語句の検討から明らかにすることが出来た。
(2)日本人司祭後藤ミゲル作とされるオヴィディウス調詩については、同じ刊行本で直前に位置するスペイン人司祭ガルシア・ガルセス作の詩と比較検討した結果、韻律的にはより洗練されているが、内容はより一般的で具体的な情報を欠いており、擬古典としてある意味典型的な、整った外見と空疎な内容の組み合わせが見られることを明らかにした。またこの組み合わせは同時代のヨーロッパの新ラテン語詩にもみられる特徴で、キリシタン時代日本にもこのような文芸の傾向が伝わっていたということを確認出来た。さらにキリシタン時代日本人神学生が筆写した可能性のある写本 BAV Reg. lat. 426 最後部のラテン語詩 4 点については、これらが 1588 年にリスボンで刊行された Manoel de Campos 著 Relaçam do solenne recebimento que se fez em Lisboa ás santas reliquias que se leváram á igreja de S. Roque da companhia de Jesu aos 25 de janeiro de から採られていることが明らかになった。この発見は、本研究者と、本研究の学会発表や論文の執筆刊行に協力していただいた Volkswagenstiftung 研究 Bernhard Schirg 氏の努力によるところが大きかったことを記す。この発見については 1588 年のリスボン刊行本は天正少年使節団との関連も想定され、今後の研究が期待できる。本研究者は、このテクスト同定が本研究全体の最大の成果であると考える。なお同写本の背景や一部文字起こしと翻訳および研究を熊本県立大学文学部所属の平岡隆二准教授と協力して進め、論文にまとめて刊行することも出来た。
(3) 1640 年にポルトガルで出版された Pereira の Paciecidos Libri は電子画像を入手して全てを読解し、またポルトガルとオーストリアにて行われた先行研究資料も手に入れて検討した。なお本研究によって国内外の史料や研究者と交流した結果、日本と新ラテン語文芸、特に韻文との繋がりについては、(1)や(2)のような日本国内の痕跡よりも、日本におけるイエズス会の活動を基にヨーロッパで作成された(3)のような作品群のほうが遥かに原資料もそれをめぐる背景につい

ても研究材料が豊富なのではないかという感触を得た。本研究の成果より、平成 29 年～平成 30 年度に実施予定の、本研究者を代表とするオーストリアとの二国間交流事業も派生しており、こちらはドイツ語圏における日本関係のイエズス会演劇をテーマとしている。ほか Pereira 叙事詩のような作品が韻文散文で少なくとも数点現存することも本研究により確認出来たので、今後はヨーロッパにおいて作成された日本関係の近世新ラテン語文学作品の研究を行いたいと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4 件）
1. Akihiko Watanabe, Outdoing the Original? The Economics of Early Modern Japanese Latin Poetry, Economics of Poetry 査読有 (2018): 印刷中
2. Akihiko Watanabe, Pietro Paolo Palumbo's Non Recedat Volumen (1573). Illustrated Elegiacs and Japanese Christians, Acta Conventus Neo-Latini 16 査読有 (2018): 印刷中
3. 渡邉顕彦、日本と西洋古典についての覚書(1)―「受容」という視点―、東京大学西洋古典学研究室紀要 10　査読有　(2017)：73-105
4. Ryuji Hiraoka and Akihiko Watanabe, A Jesuit Cosmological Textbook in 'Christian Century' Japan: De sphaera of Pedro Gomez (Part II), SCIAMVS 16 査読有 (2015): 125-223

〔学会発表〕（計　7 件）
1. 渡邉顕彦、異文化教材としてのギリシア・ローマ古典とイエズス会教育、カトリック教育学会（カトリック幼きイエス会 ニコラ・バレ修道院 3/10/2018）
2. Akihiko Watanabe, Per Tempora et Terras: Itinera Iaponum Facta et Latine Commemorata Saec. XVI et XVII, Conventus XIV Academiae Latinitati Fovendae (University of Kentucky, 7/29/2017)
3. 渡邉顕彦、日本を舞台としたラテン語叙事詩 Paciecidos における演劇的・エンブレム的要素、東京大学多分野演習(東京大学 5/18/2017)
4. Akihiko Watanabe, Reception and Production of Neo-Latin by Early Modern Japanese Jesuit Alumni, Forschungskolloquium (Seminar für Lateinische Philologie des Mittelalters und der Neuzeit) (Universität Münster 6/15/2016)
5. Akihiko Watanabe, Outdoing the original? The economics of early modern Japanese Latin poetry, Economics of Poetry (American Academy in Rome, 4/30/2016)
6. Akihiko Watanabe, Pietro Paolo Palumbo's Non Recedat Volumen (1573): Illustrated Elegiacs and Japanese Christians, IANLS 2015 (Universität Wien 8/5/2015)
7. Akihiko Watanabe, Neo-Latin Poetry in Early Modern Japan: Some Considerations, Kentucky Foreign Language Conference (University of Kentucky 4/25/2015)

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
渡邉　顕彦　　(WATANABE, Akihiko)
大妻女子大学・比較文化学部・准教授
研究者番号：60612025

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
伊藤　博明（ITO, Hiroaki）
専修大学・文学部・教授
研究者番号：70184679
平岡　隆二（HIRAOKA, Ryuji）

熊本県立大学・文学部・准教授
　研究者番号：10637622
Terence O. Tunberg
ケンタッキー大学・古典語、外国語学部・教授
Bernhard Schirg
Volkswagenstiftung 研究員